

## 編 集 後 記

一月、二月と些かのんびりした役所の中も、三月に入ると急に忙しくなつて来た。二月の鱒は一部とも云えるが、三月の鯉になると大きくウエイトがかゝつて来てをり、年度末新年度計画、稚魚放流期と大分混雜して來ている。執筆の少くなつて來たのも又止むなしと云えよう。

場長の轉出、機構問題で神室をとがらせていた場内に、ヘリングトン氏の五原則が涼風のように入つて來た。具体的な方向はとも角、資源面の一部をしか担当してはいない當場にも非常な覺醒劑となつたことは間違いない。この活力素を得て五ヶ年計画位は一躍目的達成に進めそう。

そのことと共に北海道漁業振興対策委員会というトビツクニュースがある。聞くところによれば四月から

進められるようで、道水産部をはじめ、當場、水試、水検からエキスパートを網羅して五原則の具体化が考えられて行く模様。関係者一同、道民ともにもその成果を待つや切。

新漁業法の中核的な立場を占める漁場管理委員会は愈々積極的に動いていようであるが、内水面のさけます部會も一應の見通しを得たといつてよく、道及び當場の意見とも勘案すると

- 1 鮭鱒は河川に於てはとらせない。
- 2 鮭鱒の混獲は認めない。
- 3 降下性やまべ(銀毛)をとらせない。

- 4 全道の河川をその鮭鱒に対する重要度より三段階にわけて、川口左右及び沖出しを六〇〇間、三〇〇間、〇とする。

とそれ／＼原則的な事項を基本線とするようである。

新春以來八雲に噴火灣漁業問題研究会が生れて、噴火灣の年々減少する海産を研究している。この方針としては漁村青年の知識向上も考えられ、六日間に亘る講習の實施を見たが、八雲が眞野町長(協力會連合會理事)はじめの熱意と武田支場長赴任を期に一大躍進をとげた渡島支場の努力は充分認められているところであり、そうした方向に対する運動は關係者の注目をひいている。

(秋)

昭和廿六年四月十日發行  
毎月十日刊行

札幌市外中の島

發行所 北海道水産孵化場

電話③一〇四三九番

魚と卵編集室

發行者 木村 鎚 郎

鮭、鱒、紅鮭孵化盆、孵化槽、孵化枠、  
養卵機、各種染料、テスフアルト(洗動)  
テレピン油、塗料類、亀甲沙(卵掬用)  
採卵海綿、標本瓶、卵子消毒薬各種  
化學藥品、醫療藥品、練、鮎、鯉  
等 孵化 枠 及 器 具 一 式

水産用孵化器製造元

山本勝見工務所

札幌市北三條東六丁目電停前

電話 ② 二五二七番

振替小樽 三九七八番

